

これは分掌（各学年担任団、校務担当各部）ごとに下記要領で実施した「2024年度学校自己評価」を報告するものです。

①自己評価は次の15領域（部署）で実施しました。

- ・各学年団（中学1・2・3年DS、高1・2年LS・高校3年、中学GS・高校GL、高校AAコースの6学年8領域）
- ・校務分掌各部（教務部、生徒部、宗教部、総務部、進路指導部、入試広報室、読書運動委員会7領域）

②評価法

- ・年度初めに、評価対象、評価項目、実践目標等を設定しました。
- ・年度末に、実践内容について評価しました。
- ・評価は、A（よくできた）、B（できた）、C（あまりできなかった）、D（できなかった）の4段階としました。

③改善・向上策・上記評価に基づき、改善策・向上策を検討し記載しました。

学年の部

2024年度 学校自己評価（学年・中IDS）（A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった）

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
中学一年DS	学年の目標	学年の目標の理解と実践	学年目標を「人を思いやる自分を高める」とし、様々な場面で生徒に趣旨を説明し、声かけをする。	1. 目標を印刷したものを廊下や各教室に掲示して常に目に触れるようにした。 2. 学年集会・学年だより・各クラスでのHR等で取り上げた。	B	・わかりやすい言葉を意識して掲げた目標ではあるが、「自分を高める」のイメージが付きにくいと思われる。具体的な話をことあるごとに伝える必要がある。
	生活指導	指導方針の確認と指導体制の推進	年度初めに方針の確認をする。	1. 携帯の使用、身だしなみ、不要物を持ち込まないなどについて指導方法を学年団で確認した。 2. 生徒情報は、年度当初学年団で共有するとともに、授業担当者にも連絡、対応について確認し合った。 3. 個々の生徒について、朝の職員朝礼等を通して伝達し、連携をはかるとともに、保健室・相談室とも密に連絡を取り合った。	B	・機会あるごとに学校のルールを伝え、継続的に指導していく必要がある。 ・学年団の情報共有のおかげで、各生徒の現状を比較的正確に把握でき、問題にも早く対応できたため、今後も同様に取り組んでいく。
	学習指導	基礎学力の定着と学習意欲の向上	中学の授業形態に慣れさせ、自主的な学習を促す。	1. 授業の準備や宿題、提出物など、学校生活の予定や見通しを手帳に整理する習慣をつける。 2. 中学最初の定期考査前には、各教科の担当から「勉強のやり方」を講義する時間を設けた。 3. 数学の成績中上位層の力を伸ばす目的で毎週水曜日の放課後に数学特進講座を開講した。 4. 朝の学習として、1学期はiPadを使用した学習に、2・3学期は朝の読書を実施。 5. 各学期末に成績不振の生徒に対して補習を実施し、一方で興味をもって取り組めるような「理科実験講座」「英語でCooking」など希望者参加による講座を実施。 6. 2学期以降、全員受験の実カテストを実施した。 7. 百人一首大会や聖歌発表会、レシテーションコンテストをおこない、クラスや学年全体の学習意欲の向上をはかった。 8. 学校における様々な学習活動においてICTデバイスを活用し、学習能率の向上を試みた。	A	・学習に対する意欲の差が大きく、また自分で考えながら学習することの難しい生徒が多い。モデルケースを示すなど、具体的な実践方法を示しながら指導していく必要がある。 ・補習は5教科を中心に実施したが、思うような効果が得られず、さらなる工夫が必要である。 ・実カ考査上位者を発表したり、成績が伸びた生徒を表彰したりなどの取り組みを行ったことは、実カ考査に向けての学習の必要性を伝える、ある一定の効果はあったと思われる。継続していく。
	総合学習	1. マナー 2. 心のマナー	1. マナーを実践的に学び、学校生活や社会における人間関係に活かす。 2. コミュニケーション上の問題が多い時期であることを念頭に、他者を理解しつつ、上手に自己主張を行える	1. クラスでは誰もが安心して過ごせるよう、「クラスの安心ルール」考え、学習や課外活動に自分らしく取り組める環境作りを目指した。 2. 友人との上手なコミュニケーションが実践できるよう、スクールカウンセラーによる講座を2学期に2回実施し、人間関係の緊張を緩和する方法について学んだ。	A	・安心ルールは、各クラスにおいて注意・指導する時などにも活用できた。より具体的なルールを考えさせるようにしたい。 ・スクールカウンセラーによる講座は具体的で、実際に役立つ内容であった。

			ようにする。	3. 心のマナーをより深めて、いじめ問題について、映画鑑賞などを行い、「いじめ」の定義を各自で考えた。		いじめ問題について、これが 答えというものはないが、それぞれが自分なりの答えを探すべく真剣に考えた。今後も自分のこととして問い続けられるよう投げかけていく。
	行事	1. 夏のキャンプ 2. 春の遠足・秋の校外学習 3. 芸術鑑賞	1. 自然に親しみ、集団生活の中で規律を守り、協力しながら行動させる。 2. 自然に親しみ、友人と交流を深める。 3. 臨場感ある芸術鑑賞によって感性を磨く。	1. 集団での過ごし方を意識し、他者との協力の在り方を体験とともに学ぶようにプログラムを実施した。 2. 春の遠足では灘丸山公園へ、秋の校外学習では神戸須磨シーワールドへ行き、自分たちで計画を立て、グループ学習に取り組んだ。 3. 1学期に「ピッコロわくわくステージ」、2学期には「わくわくオーケストラ教室」に参加した。	B	・夏のキャンプは、キャンプリーダーと共に積極的にプログラムに参加し、集団生活を通して貴重な体験を積んだ。ただ、自然の中で危険から身を守ることに、もう少し事前に話をしておくべきだった。 ・芸術鑑賞は、迫力のある実際の演技・演奏に触れることで良い刺激を受けていた。今後も機会をみつけて参加したい。 ・校外の学習では、社会での立ち居振る舞いについても、これを機に指導していく必要がある。

2024 年度 学校自己評価(学年・中2DS) (A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった)

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
中学 二年 DS	学年の目標	学年の目標の理解と実践	1. 学年目標を「正しく問い、深く考える。～生活のこと、学習のこと」とし、様々な場面で生徒に趣旨を説明し、声かけをする。	1. 目標を印刷したものを廊下や各教室に掲示して常に目に触れるようにした。 2. 学年集会・学年だより・毎日の Classi 連絡・クラス HR 等で、直接的・間接的に取り上げながら意識させた。	A	・個々の意識の差が大きく、全体として、理解と実践を深めるには生徒の成長を促しながら、継続的に粘り強く声掛けをしていく必要がある。
	学習指導	基礎学力の定着と学習意欲の向上	1. 生活・学習において自己管理の力をつける。 2. 授業外で学習する機会(時間と場所)を積極的に設け、参加を呼びかける。 3. 「学び」に対する興味や関心を引き起こす取り組みを実践する。 4. 成績の上・中・下位層のそれぞれに応じた支援を工夫しておこなう。	1. 朝礼前の5分間を「手帳の時間」として、前日の起床・就寝・勉強開始時間の3点を記載させるように指導した。 2. 曜日ごとに Classi の Web テスト(国・数・理)を配信し、朝の手帳の時間の一部を学習時間とした。 3. 数学の成績中上位層の力を伸ばす目的で毎週月曜日の放課後に数学特進講座を開講した。 4. 自学自習の習慣をつけられるよう、毎週土曜の放課後に勉強会を開催し、当番制で教員が支援にあたった。 5. 実力考査への意識を高めるため、帳票の見方の講習、試験前の対策会と試験後の解説会、各教科の成績上位者名の掲示などを実施した。 6. 各学期後に成績不振の生徒に対して補習を行った。 7. 各学期後の短縮授業の放課後の時間を利用し、興味・関心を引き起こすような発展講習を各教科で企画・実施した。 8. 百人一首大会やレシテーションコンテストをおこない、クラスや学年全体の学習意欲の向上をはかった。 9. 学校における様々な学習活動において ICT デバイスを活用し、学習能率の向上を試みた。	A	・朝礼前の「手帳の時間」では、生活記録を記載したり、Web テストや学習準備にとりかかる生徒がみられるなど、一定の効果はみられたが、まだ全体的に取り組む様子は試験前などに限定されており、自己管理を習慣づけるためには継続的に指導していく必要がある。 ・数学特進講座や発展講習などには中上位層の一定数の参加者がみられたことは良かった。今後も興味感心から得意科目の発見、しいては学習意欲向上につながるような展開をしていきたい。 ・放課後の勉強会や考査対策会には、様々な学力層の生徒が参加し評価できるが、特定の生徒に限定されてきており、その点を打開するような工夫が必要である。 ・補習は英数国の3教科を中心に実施したが、補習対象者の中にもレベルの差が生じており、より効果的な補習にするためには、これまでのような一斉授業形式ではなく、個別対応に近い形にする必要がある。 ・1 年次同様、iPad を授業時に使用した場合には、学習活動以外のことに興味が移ってしまうなど、いまだメリットよりもデメリットの方が大きい。ICT デバイスの使用については今後も十分な注意と細かい指示・監督が必要である。

生活指導	指導方針の確認と指導体制の推進	<p>1. 身だしなみや活動時間などに対する規則を順守する生活を送るように指導する。</p> <p>2. 生徒の状況把握に努め、その情報については学年の教員間で共有し、適切な対応を行う。</p> <p>3. 保護者との連携を積極的に行い、生徒への対応を家庭と連携して行う。</p>	<p>1. 本校の規定などについて、学年集会・学年だより・HR 等の機会を使って周知し、指導した。</p> <p>2. 遅刻・頭髪等の風紀面について、教員間で意思統一して指導をおこなった。</p> <p>3. 各学期に生活アンケートを実施し、それをもとに個別面談を行った。</p> <p>4. 保護者面談は、夏期休暇中に全員、3 学期はじめに希望者で実施した。</p> <p>5. 特に問題の生じている生徒については職員朝礼時にそのつど報告した。</p>	B	<p>・風紀面や生活のルールは一部の生徒が守りきれないため、理由や生徒のもつ背景を聞きながら今後も辛抱強く注意していく必要がある。</p> <p>・生活アンケートなどでは、表情には出さない正直な思いを答える生徒が複数おり、生徒の心情を把握するために今後も継続して行う。</p> <p>・3 学期の保護者面談では学年の 1/3 が希望し、より深く話をすることができた。時間的な負担が大きいとそれだけの価値はあると考える。</p> <p>・学年団での生徒情報共有のおかげで、各生徒の現状を比較的正確に把握し、問題にも適切に対応できたため、今後も同様に取り組んでいく。</p>
総合学習	<p>1. いのち</p> <p>2. 進路</p>	<p>1. 生や死について深く考え、すべての命がかけがえのないものであることを認識し、自分の生き方の問題として考えさせる。</p> <p>2. 自分の将来をより具体的に意識・想像させるきっかけを与え、今やるべきことを考えさせる。</p>	<p>1. 調べ学習、講演、映画鑑賞、育児体験などの多様な活動を行い、「いのち」に関する自分なりの理解を深め、意見・考え方を表現させた。</p> <p>2. 総合学習の最終活動として、「いのち」に関わる支援団体を調べ、寄付・募金活動を奉仕活動として実践した。</p> <p>2. 自分の将来を考えさせるために、大学見学ツアーやピアカウンセリングなどを実施した。</p>	A	<p>・いのちというテーマが比較的身近であり、かつ題材も現実的で優れたものが多いため、ほとんどの生徒が熱心に取り組んでいた。なかでも「赤ちゃん先生」は印象が強く、今後も継続していく価値が大いにあると思われた。</p> <p>・毎回の活動を熱心に取り組んだおかげで、活動の振り返りから奉仕活動へのつながりがスムーズにできたと感じられた。</p> <p>・大学見学ツアーによって、進路や将来を意識する生徒が増えたことはよかった。もっと大学が活動している時期を見学できるよう工夫できるとよいだろう。</p> <p>・どちらのテーマにおいても、より効果的な印象をもたらすためには、活動内容がどのように前後につながっているのかを説明していくのがいいと思われた。</p>
行事	<p>1. 春の遠足</p> <p>2. British Hills(国内英語研修)</p> <p>3. 奉仕活動</p> <p>4. 芸術鑑賞</p>	<p>1. 自然のすばらしさ、自然の大切さを学ぶ。</p> <p>2. 英語力を高めると同時に、異文化体験を実感する。</p> <p>3. 総合のテーマ「いのち」と連動した奉仕活動を行う。</p> <p>4. 臨場感ある芸術鑑賞によって感性を磨く。</p>	<p>1. 新神戸から再度公園までのハイキングを実施した。</p> <p>2. 福島県にある British Hills を訪れ、英語研修をおこなった。</p> <p>3. 「いのち」に関わる団体への支援活動を通して寄付と募金を考えさせた。</p> <p>4. 学校行事の団体鑑賞だけでなく、1 学期に「ピッコロわくわくステージ」にも参加し、観劇した。</p>	B	<p>・各行事に生徒達は積極的に参加し、かつ教室内ではみられない生徒の一面もみられたため、今後も継続していく。</p> <p>・ただし、手のかかる生徒が多くなってきているため、校外に出る場合は当該学年だけでは引率教員数が不足するため、他学年と合同にするなど、実施には工夫が必要である。</p> <p>・英語能力の差が大きいため、British Hills のような研修で効果を上げるためには、英語能力別のグループ分けと、適切な学習プログラム選択が必要となっている。</p>

2024 年度 学校自己評価(学年・中3DS) (A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった)

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
中学三年DS	ストリームの目標	学年の目標の理解と実践	1. 学年目標を「ともに歩む」とし、様々な場面で生徒に趣旨を説明し、声かけをする。	1. 学年集会・学年だより・各クラスでのHR 等で取り上げる。	B	・しっかりと取り組めた場面もあったが、常に意識をするところまではいかなかった。継続して粘り強く声掛けをしていく。

学習指導	基礎学力の定着と学習意欲の向上	<p>1. 授業や行事予定の確認、持ち物や提出期限、学習計画等に手帳を活用し、時間管理・自己管理に繋げる。</p> <p>2. 成績下位層の生徒に対してサポートを行い、底上げを図る。</p> <p>3. 応用・実践力を試す機会を設ける。</p> <p>4. 成績上位層の生徒に対してサポートをおこない、学習意欲と能力を伸ばす。</p>	<p>1. 授業の準備や宿題、提出物など、学校生活の予定や見通しを手帳に整理する習慣をつける。</p> <p>2. 朝礼前の5分間を「ドリルの時間」として、国数英の基礎力を定着させる時間とする。</p> <p>3. 全員受験及び希望者による実力考査を学期ごとに実施し、解答配布後には解き直しをさせた。また、基礎学力判定試験を見据え、夏休みでは過去問題を宿題とし、登校日にプレ基礎学力テストを実施した。2学期末には2回目のプレ基礎学力テストを実施した。</p> <p>4. 数学の成績上位層の力を伸ばす目的で毎週水曜日の放課後に数学特進講座を開講した。</p>	B	<p>・ドリルの取り組みは個人によって差があった。共通して取り組めるようにきちんと定着させることができるようにしたい。</p> <p>・引き続き効果的な補習をおこなっていく。</p> <p>・応用力をつけることを意識した授業をおこなう。</p> <p>・中上位層の学習意欲と能力の向上を図る。</p> <p>・基礎学力判定試験に向けて、様々な場面で意識させた。しっかりと準備して、本番に臨む生徒がいた。</p>
生活指導	指導方針の確認と指導体制の推進	<p>1. 頭髪等の風紀面について、教員間で意思統一して指導をおこなう。</p> <p>2. 携帯やタブレットの使い方について、教員間で意思統一して指導をおこなう。</p> <p>3. 面談を学期ごとに実施し、生徒の状況把握に努め、生徒対応に活かす。</p>	<p>1. 学年団全体で生徒を見守り、必要に応じて保護者とも電話・メール・面談などによって連携をとる。</p> <p>2. 本校の規定にふまえて、学年集会・DS日より・HR等の機会を使って周知し、指導した。</p> <p>3. 学期ごとに面談を実施した。</p>	B	<p>・風紀面や生活のルールについて、朝終礼や集会で話をした。全員が守れるように徹底させていきたい。</p> <p>・ルールを意識して使用できる生徒が多くなったが、個人差もあるので、粘り強く指導していく。</p> <p>・次年度も同時期に実施して、生徒対応に生かす。</p>
総合学習	「進路」「平和」についての学習	<p>1. 進路(進路) 中学と高校の違いを学び、自分の適性を知り、身近な人の職業を知る。手帳を有効に使えるようになる。</p> <p>2. 進路(小論文) 自分自身を見つめなおし、「人に負けないあなたの強み」を小論文にする。</p> <p>3. 平和学習 国内外の紛争や戦争について考え、平和への提言をまとめ、発表する。</p>	<p>1. 高校生活や学習において最低限求められることや、進路実現のために必要なことについて調べた。卒業生の講演を通して将来の進路について考えさせた。手帳の使い方を説明し、実践した。</p> <p>2. 基礎小論文補助教材を利用して文章を書く基礎を身につける取り組みを進め、3学期には小論文試験を受けた。</p> <p>3. シリアの内戦や広島原爆投下についての講演を聴いたり、戦争に関わる映画を鑑賞したりして、どのようにすれば平和な世界になるのかを考えさせ、「平和への提言」という形で発表させた。 夏休みには沖縄修学旅行を見据えて調べ学習に取り組ませた。</p>	A	<p>・調べたことや講演を通して、どのようなことを意識して高校生活を送り、将来の進路に繋げていくか真剣に考えていってほしい。</p> <p>・一から書き上げていく力はまだ身につけていないため、テキストを使用し、内容をステップアップさせていく。</p> <p>・見たり聞いたり調べたりすることで留まることなく、「平和への提言」で考えた改善策・解決策を、行動に移すことを促していく。</p>
行事	<p>1. 春の遠足</p> <p>2. 修学旅行(沖縄)</p> <p>3. 奉仕活動の日</p>	<p>1. 自然のすばらしさ、自然の大切さを学ぶ。</p> <p>2. 沖縄戦を通して、平和学習を行う。また、沖縄の歴史・文化・自然に触れる。</p> <p>3. 学年全体で貧困と環境問題についての活動をおこなう。</p>	<p>1. 谷上駅から森林植物園へのハイキングコースを散策した。</p> <p>2. 祈念公園、資料館、米軍基地などを訪れ、過去と現在の沖縄を肌で感じ、平和について考えさせた。また、美ら海水族館や今帰仁城跡、古宇利島を訪れ、歴史・文化・自然を学んだ。</p> <p>3. フェアトレードと古着回収の活動に取り組んだ。</p>	A	<p>・次年度も六甲山系の別コースで自然のすばらしさに触れる。</p> <p>・現地を訪れて、沖縄戦や基地問題など多くのことを感じ取ることができた。予定していた海洋プログラムは荒天のため中止となった。</p> <p>・フェアトレード商品の単価が高いが、生徒達の努力で完売できた。古着回収には工夫が必要。</p>
その他	ICTの活用	<p>1. 授業や総合学習、HR等で活用していく。 こうした学校活動を通してICTリテラシーを向上させる。</p>	<p>1. 学年、クラスからの連絡はClassi、教科からの連絡はTeamsを活用していた。一部の授業ではアプリケーションソフトを利用して授業を進めたり、課題をさせたりした。この利用を介して必要なスキルを身につけた。</p>	A	<p>・連絡先を分けたことで、確認するアプリの問題を解消した。今後も様々な活用を推進していく。</p> <p>・ICTリテラシーに関しては、個人差があるので、全体的な向上を図る。さらに資料作成やプレゼンテーション等のスキルも向上させていく。</p>

2024年度 学校自己評価(学年・高 ILS) (A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった)

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
高校 1年L S	ストリームの 目標	学年の目標の理解と実践	学年目標:「彩」	学年集会・LSだより・各組のHRなど、様々な場面で生徒に趣旨を説明した。	B	常に意識をるところまではいかなかった。継続して粘り強く声掛けをし、学年通信でも取り上げる。
	学習指導	高校1年生としての基礎学力の定着と学習意欲の向上	1.授業や行事予定の確認、持ち物や提出期限のメモ、学習計画等に手帳を活用する習慣を身につけさせ、時間管理・自己管理に繋げる。 2.応用・実践力を試す機会を設け、入試等の問題を解く力をつけさせる。 3.進路に向けて放課後や長期休暇に講習を設定する。	1.(内部進学生は中3最後の学級通信で、高校入学生は入学ガイダンスで呼びかけて)始業式までの間に、各自で手帳を購入して活用するように呼びかけた。 2.校内実力判定試験と外部業者の実力考查及びを年3回ずつ、スタディーサポートを年2回実施した。特進クラスの生徒については、土曜日の4限に英数国の講習をおこなった。 3.希望者対象に、水曜日の放課後に数学特進講座を開講した。また、各期末考査後の短縮授業期間の放課後や長期休暇を利用して補習を実施した。	B	1.個人によって差があった。個人に任せるだけでなく、全体で呼びかける時間をとり、手帳の利用を定着させ、時間管理・自己管理に繋げていきたい。 2.年3回ずつ校内実力判定試験と実力考查を実施する。応用力をつけることを意識した授業をおこなう。効果的な補習を実施する。 3.引き続き開講し、上位層の学習意欲と能力の向上を図る。
	生活指導	指導方針の確認と指導体制の推進	1.服装・頭髪等の風紀面について、学年の教員間で意思統一して指導を行う。 2.携帯やタブレットの使い方について、教員間で意思統一して指導をおこなう。 3.生活アンケートを実施し、生徒の状況把握に努め、面談等の生徒対応に活かす。	1.本校の規定や指導ガイドラインに照らし合わせて適宜指導した。 2.本校の規定にふまえて、学年集会・LSだより・HRなどの機会を使って周知し、指導した。 3.1学期中間考査最終日に実施した。	A	1.風紀面についての乱れはほとんどなかったが、今後も必要な指導を継続していく。 2.ルールを意識しながら使用できる生徒が多くなったと思うが、引き続きしっかりと指導していく。 3.次年度も同時期に実施して、生徒対応に生かす。
	言語探究 (総合的な探究)	「進路」「探究」	1.進路 キャリア形成について、主体的に行動し、将来の進路実現に繋げる。 2.探究 探究の見方・考え方を働かせ、社会と人の生活に関わる総合的な学習を通して、適切で論理的な課題の発見と解決ができるようにする。 3.Blue Earth Project 環境問題について考え、行動に移させる。	1.業者が提供するプログラムを利用して学問研究、適性診断をおこなった。高校生活や学習において最低限求められることや、進路実現のために必要なことについて調べた。卒業生の講演を通して将来の進路について考えさせた。 業者のテキストを利用し、課題についての小論文を書けるようにした。 課題について自分の考えをまとめ、小論文テストという形で書かせたものを業者に添削してもらった。さらに、講演会でのアドバイスをふまえて、リライト(書き直し)を実施した。 2.「Question X」という学習プログラムに取り組んだ。ゲーム感覚で多様な問いに出会いながら、少しずつ問い自体に意識を向けるようにさせた。この取り組みで立てた問いを後述の「奉仕活動の日」の活動につなげていった。 3.「エコレクチャ(環境問題に関するレクチャ)」を受け、デコ活に関わるアクションを企画し、イベントでブースを出すという想定で、企画・プレゼンを疑似体験する活動に取り組んだ。2学期以降は、希望者による取り組みに移行した。	A	1.調べたことや講演を通して、どのようなことを意識して高校生活を送り、将来の進路に繋げていか真剣に考えてほしい。 進路実現に必要な、説得力のある文章が書けるように、業者のテキストを使用して、内容をステップアップさせていく。 2.見たり聞いたり調べたりすることで留まることなく、自ら問いを立て、改善策・解決策を考えさせ、行動に移すことを促し、さらに次の問いを立てることができるようさせていく。 3.高2以降のBlue Earth Projectの活動にも積極的な参加を促す。
	行事	1.春の遠足 2.秋の校外学習(奈良) 3.奉仕活動の日	1.自然のすばらしさ、自然の大切さを学ぶ。 2.世界遺産(東大寺・興福寺・春日大社・元興寺)に触れる。班別に事前に計画し、自主研修する。 3.学年全体で取り組み、社会のためになる活動をおこなう。	1.六甲山ケーブルを利用して、六甲山アスレチックパーク GREENIA に行った。 2.主体的に行動させるため、班を作らせ、世界遺産のいずれかを巡るような行動計画書を事前に提出させて実施した。 3.自ら立てたSDGsに関する問いについて、iPadを用いて発表した。 事前に言語探求の時間を利用して、各自がパワーポイントを使用して3分程度のプレゼン資料にまとめ、組ごとに発表した。各組の優秀作を決め、学年全体の前で発表した。	A	1.次年度も六甲山系の別コースで自然のすばらしさに触れる。 2.高2の修学旅行に向けて、主体的に計画し、指定した時間に集合・解散する経験ができて良かった。 3.それぞれが工夫してプレゼン資料をまとめ、しっかりと発表することができた。
	その他	ICTの活用	1.授業や総合学習、HR等で活用していく。 こうした学校活動を通してICTリテラシーを向上させる。	1.教科やクラスの連絡ツールを活用した。授業ではアプリケーションソフトを利用して授業を進めたり課題をさせたりしているこれらの利用を介して必要なスキルを身につけた。	B	1.授業での活用の余地はまだあるので、今後様々な教科で活用を推進していきたい。 ICTリテラシーは向上しているが、個人差がある。資料作成やプレゼンテーション等のスキルもさらに向上させていきたい。

2024年度 学校自己評価（学年・高2LS）（A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった）

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
LS	コース目標	学年の目標の理解と実践	学年目標： 「生きぬく力、思いやる心」 副目標： 「自立・自律」	学年集会・LS通信・HR等で機会があるごとに触れるとともに、様々な活動において可能な限り目標を意識させる。	B	在学中はもとより卒業後も、人としての基本的な姿勢として身につくよう、場面場面で継続して粘り強く声掛けしていく。
	学習指導	高校2年生としての基礎学力の定着と学習意欲の向上	1.授業や行事予定の確認、持ち物や提出期限のメモ、学習計画等に手帳を活用する習慣を身につけさせ、時間管理・自己管理に繋げる。 2.応用・実践力を試す機会を設ける。 3.入試等の問題を解く力をつけさせるために放課後や長期休暇に講習を設定する。 4.情報収集、要約、発信力を鍛え、社会で必要となる能力を身につけさせる。	1.朝礼前の5分間を「手帳の時間」として設定したほか、授業やHRでの連絡の際に手帳に書かせるなど、手帳の活用を習慣づけるようにした。 2.全員受験の実力考査及び校内実力判定試験を年3回ずつ、スタディーサポートを年2回実施し、解答配布後には解き直しをさせた。 3.特進クラスの生徒を対象に土曜4限に英数国の講習を行ったほか、希望者を対象に月曜の放課後に理科・社会の講習を行った。また、長期休暇に進学補習を実施した。さらに、特進クラスは学期末に2～3日間、終日集中的に勉強する取り組みとして勉強会を実施した。 4.世の中の出来事について調べ、要点をまとめ、意見・感想を書く「MY NEWS」を提出させた。	A	1.取り組みは個人によって差がある。個人に任せず全体で書かせる時間を増やし、手帳の利用を定着させ、時間管理・自己管理に繋げていきたい。 2.実力考査や校内実力判定試験を実施する以外にも、応用力をつけることを意識した授業を行っていく。 3.次年度も引き続き開講し、上位層の学習意欲と能力の向上を図る。 4.提出させるだけでなく、添削など内容に関するフォローを行うことで、書く力もつけさせたい。
	生活指導	指導方針の確認と指導体制の推進	1.服装・頭髪等の風紀面について、学年の教員間で意思統一して指導を行う。 2.携帯電話やタブレットの使い方について、学年の教員間で意思統一して指導を行う。 3.生活アンケートを実施し、生徒の状況把握に努め、面談やその後の生徒対応に活かす。	1.本校の規定に照らし合わせて適宜指導した。 2.本校の規定に加え、学年でもルールを定め、学年集会・DS通信・HR等の機会があるごとに周知し、指導した。 3.1学期と2学期に実施し、面談等に活用した。	B	1.風紀面についての乱れは一部の特定の生徒のみであるが、今後も必要な指導を継続していく。 2.ルールを意識しながら使用できる生徒がほとんどだが、引き続ききちんと指導していく。 3.次年度も実施し、生徒対応に生かしていく。
	言語探究	1.自己分析・自己表現 2.自己に対する心理的アプローチ 3.問いの探求 4.進路	1.自己分析や自己表現の方法について触れる。 2.自己についての心理的アプローチを学ぶ。 3.身の回りの事象から「問い」を生み出し、考える習慣を身につける。 4.小論文や志望理由書の作成に向け、文章の書き方の基礎を学び、実践する。	1.エニアグラム等を用いて自己分析したり、動画作成アプリCanvaを用いて自己表現した。 2.スクールカウンセラーの先生に講義をしてもらい、レジリエンス、セルフコンパッション、強みなどの心理学的アプローチについて学んだ。 3.Question X という教材を通して問いを生み出す経験をした。 4.教材を用いて小論文や志望理由書の書き方を学び、実際にテスト・添削・リライトを行ったほか、講師の先生に講義してもらい、文章作成のポイントを学んだ。	B	1.学んだ手法を参考に単に自己分析や自己表現をするだけでなく、進路実現に役立てることが必要。 2.様々な心理学的アプローチを知って終わりではなく、自己理解を深めて、進路実現に役立てることが必要。 3.受け身の経験にとどまることなく、主体的に問いを生み出し、考えられるようになることが大切。 4.学んだ内容を生かして実際の入試に役立てることが必要。
	行事	1.春の遠足 2.海外研修（シンガポール）	1.自然のすばらしさ、大切さを学び、友人関係を深める。 2.下記4点を目標とした。 ①人種、言語、文化等が異なる国で「異文化」や「多様性」を直接体感することで、他者を認め、理解する心を培う。 ②様々な場面で積極的に英語を話し、コミュニケーション能力を高める。 ③集団での旅行を通して、計画性、協調性を育む。 ④学年目標である「生きぬく力・思いやる心」を培う。	1.JR須磨駅に集合し、須磨山上遊園まで歩き、昼食後、下山し解散した。 2.様々な観光地を巡ったほか、4つの目標を意識したプログラムを企画した。One Day Global Study Programでは、現役シンガポール国立大学等の学生が講師役となり、シンガポール特有のテーマである「水問題」「多様性」「教育制度」についての講義を聴き、ディスカッションを行った。また、B&S Programでは、現地大学生をガイド役として、班別に自分達で立てた計画をもとに、ガイドと英語でコミュニケーションを取りながら市街を自由散策した。	A	1.目的地に到着するのに時間がかかった生徒がいたが、トラブルもなく無事終了できてよかった。 2.学校として初めての海外での修学旅行ということで、様々なトラブルが予想されたが、生徒に大きな病気や怪我、その他トラブルもなく、予定通り行程を終えることができた。各プログラムの中身や様々な段取りなどについては、次年度以降改善していくべきことが多々あったため、毎年の経験をもとに、より良い研修旅行を作り上げていってほしい。

2024年度 高校3年 学校自己評価 (A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった)

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
高 校 3 年	学年の目標	学年の目標の理解と実践	If you can dream it, you can do it.	目標は教室と廊下に掲示。学年集会や学年だよりで、できるだけ話題としてとりあげた。	B	掲げられた目標と具体的な活動の関係が生徒にも分かるようにするべき。
	生活指導	指導方針の確認と指導体制の推進	・生徒の様子を注意深く見守り、保護者とも電話、メール、面談など必要な連携をとる。 ・教員の間で、密に情報を交換し合う。 ・学期に一度以上の生徒との個人面談の時間をとる。	・職員朝礼や放課後に生徒に関する情報共有をする。 ・遅刻・欠席の数の多い生徒、ルールに関する認識が低い生徒については生徒に対する指導に加え、積極的に保護者に協力を求める。	B	進路が決まった後、欠席遅刻の多くなる傾向があった。卒業後を見据えた適切な目標設定が必要。
	学習指導 進路指導	高校3年生としての学力の定着と進路に向けた活動を通じた学習意欲向上の推進	・業者模試等の結果を利用し、具体的に進路を考え、決定していく。 ・進路実現に向けた学習意欲の向上と必要な学力の定着を促進する。 ・進路決定後も将来を見据えて学習を継続する。	・年3回の実力テスト及び希望者模試を実施し、学力の把握につとめる。 ・進路説明会を4月・6月に実施し、入試情報の共有、ルールの周知に努める。 ・校内オープンキャンパス・看護医療系ガイダンス・松蔭大説明会などを実施し個別の進路情報の共有を図る。 ・放課後・長期休暇中に課外講習を設定する。 ・入試で小論文が必要な生徒に対し、個別指導を行い、小論文模試も実施する。 ・指定校推薦決定者への指導として、学力不足であると判断した生徒については自習等を課す。 ・進路決定者を対象とした学習プログラムを設定する。(ブルーアースプロジェクト・読書口頭試問プログラムなど)	A	志望理由書・小論文の対策については生徒が受験方式を決めるまで、真剣に取り組めない印象であった。できるだけ早く受験方式を考えさせ、スタートを早める仕組みがあるとよい。
	総合・探求	主体的に考え判断し伝える力の養成	・文章の書き方のルールを知り、自分の考えを他者に伝える。 ・企業活動を疑似的に体験し問題発見、解決力を養う。	・業者教材を利用して志望理由書作りを学ぶ。 ・BizWorldの講師の先生から短期集中でアントレプレナーシップ講座を受講する。	A	・アントレプレナーシップについては、実施場所、実施時間に余裕があれば、生徒の理解がより進んだかもしれない。
	学年行事	遠足	・自然に触れ、友人との親交を深める。	・布引ハーブ園。卒業アルバム写真の撮影などを実施。	A	・1学期の学年行事はこの遠足のみになるので、雨天時は授業ではなく何かしらの行事をしてあげられる形のほうがよい。

松蔭中学グローバル・ストリーム(GS)・高校グローバル・リーダー (GL) 2024年度 学校自己評価

(A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった)

対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
目標	目標の理解と実践	「 Know the World: Embrace the Unknown.世界の有り様を知り、未知との遭遇を楽しみましょう」 「 Understand the world: Build Bridges 世界の有り様を理解し、知識を連結・統合する」 「Explore the World: Make Your Mark.世界の有り様を探究し、自分の道を切り拓く(きりひらく)!」	何かある度に目標を引用して今の自分たちの位置づけを説明した。また、中学1年生は知識をインプットする時期で学ぶことが多いが、それが〇〇につながるや〇〇と関係している、また〇〇で面白よね?など、好奇心を掻き立てるような声掛けを行い続けた。	A	色んなことができるようになったことで生徒たちは自信をつけたように見える。今後も知的好奇心を高める工夫を行いながら、その背中を常に押すサポートを続けたい。
生活指導	指導方針の確認 指導体制の推進	校則については年度初めに教員間で確認、また迷いが出ればその都度、確認する。安心できる学習環境が一番、何かが教室で起こっているようならすぐに教員内で報告相談連絡。	教員間で常に生徒状況を報告し合い、校則については指導の統一ができるように、また不安をかかえている生徒がいるなら、その指導について話し合い、生徒や保護者が安心するよう取り組んだ。	A	教員間で話し合い、指導について共通理解ができた。(正解かどうかは分からなくとも)、生徒にとって常に最善の方法を教員間で常に話し合い、実践できた。
学習指導	普段の指導	朝の音読を3種類(知識の音読、表現の音読、定着の音読)に分け、語彙力や表現力を伸ばし、ポートフォリオで自己を振り返る。また普段からの声や担任との面談を通して、基礎学力の定着及び、学習意欲を向上	終礼で宿題の確認を行ったり、大きなテストの後には、振り返りをつけたり等、何のために、何をすべきか、また反省点は何か分かる振り返りの機会を多くとった。	A	中学の段階では当たり前のようにこの振り返りをできるようになるまで、生徒に伝えていくことが必要。今後も声をかけ続け、常に何のために、何をすべきかを意識させ続けたい。

	音読	させる。	ニュースで語彙を増やしたり、演劇練習で表現力を伸ばしたり、暗記するために音読したりで、知識を増やし、表現力を養う練習を行った。	A	毎朝、帯活動のように声を出す発声法を自分たちで考えて、継続して行った成果が出た。
	ポートフォリオ		チームスで教員と対象生徒のみが閲覧可能なエクセルファイルを作成し、そこに定期考査、実力考査、評定をまとめた表や約 20 項目の問一答型の振り返りポートフォリオを作成した。情報を集約しすぐに振り返られるようにした。	A	チームスの課題に張り付ける形で、提出を行った。以前よりも見やすくなった。
	教科横断	教科横断型で教育課程を考え、より深い学びを得て、なおかつ定着して欲しいスキルを効率よく定着させる。	各学期に3つずつ教科を横断するテーマやスキルを設定し、取り組んだ。	A	連携して取り組む効果は絶大。年々、より良い形に仕上がっている。
GL探究 (総合)	プレゼンテーション	あるテーマについて学校で1番、教員も敵わない知識を持つことが目標。かつ、パワーポイント(PPT)を用いてプレゼンテーションを行う。	①学期プレゼンテーマ 前半:SDGsに関わるプレゼン 後半:中学GS:社会をよりよくする活動案 高1GL:ビジネスピッチのプレゼン 高2GL:マイテーマ×SDGs ②学期プレゼンテーマ 「日常のなぜ～さらにその先へ～」 ③学期プレゼンテーマ 中1は「好きなこと全カアピール」を日本語で、 中2は英語で行った。中3は「3 学年の振り返り」。高1は「マイテーマ×〇〇(学問領域)」高2は「大学4年間の学習計画」	A	PPTを用いたプレゼンテーションの型を習得することができた。回数を重ねるごとに生徒たちが明らかに慣れしている様子が見えた。3学期にはPPTだけでなく、英語動画まで編集して作成することができた。内容面でも目標の通り、教員が知らないような知識まで調べあげて発表した。教員の期待以上の成果を出した。 3 学期には、高1は今後探究していく自分のテーマを決め、高2は大学4年間の学習計画をまとめた。
	ディスカッション &ディベート	生徒同士で話し合い、知識を深める。その後、小論文を作成し、生徒同士で相互評価や教員からフィードバックを受け、さらに良いものへ仕上げる。	各学年のテーマ 中学1年GS:自動運転の賛否、代替肉の賛否、既読スルー、プラスチックの賛否、防災バッグ30、English Central 英語動画作成 中学2年GS:新しい教科を作るなら何?、出生率の問題と改善案、NIPTの賛否、The Coveがアカデミー受賞の賛否、Youtuberの分析、English Central 英語動画作成 中学3年:カップヌードルの賛否、ジェンダー、合意形成、新しい国(税や福祉)、3年間の振り返り 高校1年:Well-being(Love or Money)、ソーシャルアントレプレナー、カナダのなぞ、マイテーマの設定 高校2年:マイテーマ×(歴史、公民、政治経済)でレポート作成&DMM英会話で、マイテーマに関する調査を実施。	A	これまでに考えたことがあるものや身近なものに関しては深い部分まで考察できるが、多角的な分析が必要なテーマに関しては、まだ知識や足らず、事前学習の設定を念入りに行う必要がある。それと同時に、教員側の問いの設定を見直す必要を感じている。難しいテーマの場合は、より身近な言葉や問いにしてから取り組むよう再度、調整する。 高1でマイテーマを決めた後、高2ではリベラルアーツ的に学ぶためにマイテーマ×〇〇の視点での学びを、国語、英語、理数探求、GL探究で横断的に行った。マイテーマに関わる周辺的な知識までおさえられるようになってきたと思う。 ただDMM英会話の調査については、通年での実施を予定していたが、質問内容によっては適宜修正する必要があると感じた。次年度は、そちらの部分を工夫する。
	行事企画運営	①奉仕活動の日、②校外学習(教員主導)、③校外学習(生徒主導) 学内行事ではその意図を見極め、適切なものを考え出し、実行する。教員主導のものは、学んで欲しいもの、生徒主導は、自分たちで計画実行し、学びをデザインする。	①学期 ・世界探訪オンライン(シリア) ・校外学習 J1:JICA 関西と人と未来防災センター J2:大阪民族博物館、太陽の塔 J3:セイバンこども園 H1:農業体験 H2:農業体験 夏休み ・インターンシップ HIG:福祉施設でのインターンシップ ②学期 ・校外学習 J1:アトア(水族館)&清掃活動 J3:神戸動物王国 ・高大連携授業(神戸大) J3とH1 神戸大の先生による金融教育 最終日は神戸大でのプレゼン ③学期: ・奉仕活動の日の活動 J1:水道筋にてプラスチックのワークショップ	A	①学期の世界探訪&校外学習から、2 学期の校外学習案を考え、奉仕活動の日に実践という流れをとった。 最終的に決まったテーマは、中1が脱プラ、中2が無意識の偏見、中3が幼稚園や小学校での教育連携、高1がフードロスを絡めた松蔭ドーナツ(商品開発)、高2は日経STEAMシンポジウムで発表した、在留外国人の日本語サポートについて。 それぞれの学年が、1 学期にその内容をきめて、校外学習を考え実施を行い、奉仕活動の日において案を考えて実践した。 高2は世界合同プレゼンにも参加し、実際に賞をいただくこともでき、嬉しく思う。

			J2:無意識の偏見についての動画作成 J3:美野丘小学校連携授業の動画作成 H1:松蔭ドーナツの販売 H2:世界合同プレゼン		
	時事ニュース	時事ニュースを習慣的に読み、世界の実状を知る。また、ニュースで使われる語彙表現を学ぶ。	気になるニュースを毎週、自分のことばでまとめ、感想とキーワードとなる言葉や用語を書く。また、1人ずつ発表も行い、生徒に問いを投げかけ、全員の考えを知る。	A	発表の場を設定し、みんなで同じ問題について考えるのが非常に良かった。また問づくりの良い、練習になった。
宿泊研修		J2:アートマインドを知る。 J3:途上国の現状を知る。 H1:先進国の現状を知る。 H2:国際的な大学の様子を知る。	J2:香川県直島アートマインド研修 J3:フィリピン研修 H1:カナダ研修 H2:APU研修	A	どの研修においても生徒は大きく成長したように感じている。直島ではアートのことを知り、フィリピンでは、その国の現状を知り、カナダでも現状をした。多くのことを学んでいるが、その中でも日本のことを外からみるという視点を獲得できた部分は大きい。世界において、今の日本がどういう状況であるのかは、将来を考える上でも非常に重要である。国際的な大学をみるという意味でもAPU研修は、非常によい経験であった。
ミカエル国際学校連携	GSM 土曜日講座 ミカエル連携授業	ミカエル国際学校と連携し、インターナショナルな環境で授業を受け、英語で何かを学ぶイマージョン教育を行う。教科横断のカリキュラム内容を松蔭側と相談の上、決定して効果的な授業を行う。	満足度調査などで生徒の様子を確認しながら、松蔭側の要望や現在の生徒の様子(英語レベル、英語の取りくみ、ICTスキルなど)をその都度、報告した。	B	昨年度よりも授業アンケートによる満足度が高くなったが、それでもまだ改善の必要がある。今年度は、生徒の英語レベルによってクラスを分ける取り組みを行い、全体の流れが5回で1つのテーマが終わるという形で実施した。まだまだ改善の余地がある。
GCE	TOEFL 対策講座や課外講座や進路関係	TOEFL ITP や iBT の対策を行いつつ、様々な体験活動を行い、キャリアについて考える。	学校の様子などを報告しつつ、連携してよりより教育プログラムを考えた。 学外活動(GCEを通しての実施) ・農業体験・福祉施設のインターンシップ ・保険、美容、お笑いの専門家の特別講座 ・進路についてのワークショップ	A	英語のみならず、様々な活動を体験することにより、自分のキャリアを考えるよい機会となった。ただ、授業時間数の設計やプログラムには、まだ検討の余地がある。高2の進路関係の部分については、本校の教員も関わりながら、さらによいものになるよう検討していきたい。
実社会	実社会とのつながり	企業と連携したり、外部コンテストに応募したりで、学びを松蔭という枠だけにとどめず、外の社会とつながる取り組みを行う。	「防災バッグ30」の開発先である株式会社山善より生徒小論文へコメントを頂きフィードバック。今年度は対面でも実施した。 English Central Award 2022 応募。神戸大との連携授業	A	実際の企業と連携して学びを深めたり、学外コンテストに応募したりで今後も実社会とのつながりを直に意識できる取り組みを多く行いたい。 次年度以降は、高校生でも防災教育の実施を行いたい。

2024年度 高校 AA コース 学校自己評価 (A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった)

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
高 校 1 年 AA	学年の目標	学年の目標の理解と実践	・千日の鍛錬一瞬の業	1. 目標を教室と廊下に掲示。学年集会、学年だより等の配布物で触れて意識させる。	B	高校生活は限られた時間しかないことを意識させ、何事も積極的に取り組むよう促す。
	生活指導	指導方針の確認と指導体制の推進	・コース間で教員同士のコミュニケーションを多くし、生徒の様子を共有し適切な声掛けをしていく。	1. 生徒の様子を常に見守り、保護者とも電話・メール・面談など必要な連携をとる 2. 生徒や保護者についての情報交換をこまめに行う。	A	・より細やかに対応できるよう面談等で得た情報を共有する場を意識的に増やす。
	学習指導	高校生としての基礎学力の定着と学習意欲の向上	・短い時間であっても毎日課外学習を継続する。 ・放課後や休み時間を利用して、課題や予習復習に取り組む。	1. 放課後に各科目の学習に取り組む。 2. 全員受験の実力考査を年に3回、スタディーサポートを年2回実施する。	B	・それぞれの練習やレッスンのない日は放課後教室に残り学習に取り組んでいた。少しでも学習の意欲を高めたい。
	言語探究	進路と社会問題について学ぶ	・さまざまな環境問題に目を向け、改善に取り組む姿勢を高める。 ・コースの特色を理解し、専門的な知識や分野について理解を深める。 ・小論文の基本知識を学ぶ。	1. SDGsに基づいた課題を考え、パワーポイントで資料を作成する。 2. トレーニングやスポーツ理論について、一人ひとり発表を行う。改善できるよう同じ形式で2度実施する。 3. 小論文の基本的な書き方や文章の構成を学び、リライトをさせる。	A	・多くの環境問題に目を向けられるよう、機会を増やしていく。 ・発表については上手にパワーポイントを作成できているが、話し方や伝え方に改善点が多く、場数を増やしていく必要がある。 ・小論文は文章の構成はもちろん、まだまだ誤字や脱字が多いので基本的な学習機会を増やす。
	学年行事	遠足・校外学習	・登山を通じて神戸の自然に触れる ・奈良での一日の過ごし方のプランを作り、実践する。	1. 新神戸-修法ヶ原-諏訪神社のルートでハイキング。 2. 奈良自由散策。	A	・どちらの行事も好天に恵まれ、のびのびと過ごすことができた。 ・校外学習については積極的に多くの場所を訪れていた。 ・どの講義も積極的に取り組み、実践することが必要である。
AA 特別講	アスリート、アーティストに関	・さまざまな分野の講義、実技	3. 資料やスライドを見て講義の内容を理解す	A		

	座	わる専門知識を学ぶ	を受け、幅広い知識を得る。	る。実技が必要なものに関しては、身を持って感覚を体験する。		
--	---	-----------	---------------	-------------------------------	--	--

2024 年度 学校自己評価（校務部・教務部） (A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった)

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	次年度への改善策・向上策
教 務 部	教育課程	教育課程の作成	1. 基礎的な学力を身につけさせる。	わかりやすい授業をめざすだけでなく、小テストの繰り返し、ICT アプリ活用等により、生徒の基礎学力の修得に力を入れた。	B	引き続き授業改善に努めると共に、授業についていけない生徒への学力指導について検討をすすめる。
			2. 生徒の学力や進路に応じた、きめ細かい指導を行う。	高1以上では、英語でグレードクラスを編成した。また、選択科目を設置して進路に応じた指導を行った。中1から高1では、数学の能力・意欲が高い生徒対象に特進講座を設定した。また、高1LS特進クラスや高2LS特進クラスには月⑦や土④に必修講座を設定した。その他、長期休暇中や平日放課後にも講習を設定し、生徒の学力向上につとめた。 英検対策講座は水曜日放課後に希望者に対して実施した。	A	各学力層に応じた講座の設定、内容の一層の改善をはかる。特に（上位層はもちろんのこと）中位層の学力引き上げを意識したい。 中学の2コース、高校の3コースを意識し、各ポリシーと目標・進路を意識した適切な指導を行う。
			3. 生徒の学力を正確に把握し評価する。	学力把握のため、定期考査以外に実力考査を学期ごとに年間3回計画した。また、高1LSAA・高2LSAAでは、校内独自作成の校内実力判定試験を実施した。学習意欲の向上をはかるため、スタディサポートや英語検定・漢字検定なども実施した。中学3年生には現時点での自分の学力を意識させるため、全国学力・学習状況調査や基礎学力判定試験を受験させた。今年度から観点別評価は各学期で算出することとした。	A	実力考査や定点観測から把握できる生徒の状況に応じて、進路指導部とも連携しながら対応を考えていく必要がある。また、新しい指導要領に基づいた適切な評価が出来るよう、各教科での随時検討を促していく。
			4. 体験的・問題解決的な学習を展開する。	総合的な学習・探究の時間で自主的な調べ学習、体験的・問題解決的な学習を展開した。また、主体的な学びについての研究を進めてもらうよう促した。 修学旅行・校外学習や留学プログラムなど、校外での様々な体験・事前学習等の機会を計画した。	B	生徒が主体的な学びをより実践できるように各学年で改善を加える。特に中3総合・高1高2言語探究については、週2コマ設定を活用し、深い学びとなるよう、外部組織とも連携しながらすすめる。対外発表も意識する。
	研修	教員の研修	教員の資質を向上させるため適切な研修を行う。	全学年に iPad・surface が導入され、Microsoft365 Teams をすべての学年が使用している。 Teams や metamoji の活用も進んでおり、その他、学校が契約している Find! アクティブラーナーの使用を促した。 また、教員研修として8月末に Canva の活用法に関する講演を Teams で、12月に自動採点 YouMark の使用方法に関する講習を行った。	A	デジタルデバイスが教員並びに生徒にも浸透してきた。授業で PowerPoint などを使用することも当たり前になっており、教員のデジタルデバイスに対する苦手感も減少しているように感じている。Canva、YouMark の研修も予想以上に好評で、今後につながる良いものとなった。今後も、授業や業務の改善につながる取り組みを行っていきたい。
	国際理解教育	国際交流と国際理解	適切な国際交流行事を行い、他国の歴史や文化に対する理解を深める。	1学期は、5月から7月にかけて、ニュージーランドのセント・ピーターズ校と韓国の信明高等学校・聖明女子中学校への派遣に備えて事前学習を行い、言語や文化、歴史について理解を深めた。 夏休みには、セント・ピーターズ校への16回目となる語学留学を行った。信明高等学校・聖明女子中学校への14回目となる訪問を行った。 3学期には信明高等学校・聖明女子中学校からの14回目となる来校があり、授業での交流やホームステイを行った。 各学期にターム留学の説明会を行った。	A	今年度から、新しいプログラムとしてターム留学を導入し、最初のターム留学生を送り出した。次年度はターム留学参加者がもっと増えるよう努めたい。1学期には、夏休みのセント・ピーターズ校、信明高等学校・聖明女子中学校への派遣に向けて事前学習を行い、ニュージーランドと韓国の言語や歴史について理解を深めたい。3学期には信明高等学校・聖明女子中学校が来校し、ホームステイ等を通して交流を持つ。海外の留学プログラムを拡大する。

芸術文化 教育	芸術鑑賞行事	適切な芸術鑑賞行事を設定し、実施する。	今年度は「古典芸能」がテーマの年となり、茂山狂言会の狂言鑑賞会を神戸文化ホール中ホールにて開催した。躍動感ある舞台は大変好評であった。	A	2025年度は音楽鑑賞としてストロー演奏会を本校講堂にて中高に分けての2回公演で開催する予定である。
	学校行事	適切な学校行事の設定	さまざまな学校行事において、生徒の運動能力や自主性を高めることをめざす。	B	行事がたくさんあり、それぞれの行事に生徒も教員もかなり力を入れている。ただし、年間の各種行事のバランスを検討することも引き続き必要である。また、コースの特色をいかした行事の設定・精選も望まれる。

2024年度 学校自己評価（校務部・生徒部）（A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった）

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
生徒部	生活指導	服装規定の遵守	・正しく制服を着用し、頭髪も自然のままにしておく。	・担任、学年を中心に指導する。 必要に応じて、生徒部からも指導する。 （※特にスカート丈・補助カバン） ・頭髪については「長い髪の毛をくくるよう心がける」という指導を積極させる。 ・状況に応じて、服装検査を実施する。	B	今年度、まつ毛パーマと冬服での体操ジャージ着用が目立った。全教員で指導を行っていく。
		登下校のマナー	・交通ルール及び公共のマナーを守らせ、寄り道をしないようにさせる。 ・あいさつの励行。	・日常的に登下校指導を実施する。 ・歩きスマホをしないなど具体的な内容の指導の徹底をする。 ・関係機関と連携しながら補導活動（バス列車補導も含む）を定期的実施。 ・教員が積極的にあいさつするよう心がける。	B	マナーについては不十分な点もある。学校に寄せられた情報はすぐ共有し、生徒への声かけ、指導を継続していきたい。
		ICT端末についてのマナー	・校内のルール（指定された場所・時間以外出の利用禁止など）の遵守	・ルール（※ICTデバイスの使用場所、著作権、SNSの利用の仕方など）を理解させる。 ・全教員の積極的な声かけ、指導を実施する。	B	日常の指導を継続して実施する。
		紛失・盗難の撲滅	・教室の戸締めの徹底 ・貴重品の管理の徹底	・移動教室の際は、戸締めをさせ、貴重品（携帯電話や財布）は担任が預かる。クラブ活動における貴重品管理を各部徹底する。また、校内を巡回し紛失・盗難を未然に防ぐ。	B	貴重品については、自己管理の徹底を促し、校内の巡回も随時行っていく。
		各種講演会の実施	・スマートフォン、携帯電話の正しい使い方を身につける。 特に、インターネット、SNSの利用について正しい知識を身につける。 ・薬物に対する正しい知識を身につけ、自分自身の身を守る。	・「ソーシャルメディア」、「薬物乱用」に関する講演会を年1回開き、それぞれの持つ危険性を理解させる。保護者の方にも聞いてもらう機会をつくる。 ・スマートフォン・携帯電話を朝礼で預ける。SNSなどの不適切な書込については、発見次第随時指導する（スクールガードイアンにも依頼）。	B	兵庫県警察と少年サポートセンターに依頼し、「情報モラル講演会」と「薬物乱用防止講演会」を行った。次年度は、新入生の保護者対象に講演会を実施したい。
生徒部	美化指導	校内美化・清掃の推進	・トイレや教室の使用マナーの向上 ・毎日の清掃活動の徹底 ・各行事の美化委員の役割分担と大掃除の実施	・使用マナーについて適宜呼びかける。 ・毎日の掃除をきちんと行う。 ・大掃除では、各クラスの役割分担を美化委員が考える。 ・行事のとき、美化委員は仕事を分担し、美化に努める。	B	行事や大掃除後に美化委員に振り返り用紙を提出してもらった。責任を持って美化の仕事を果たすことができていた。この意識を全校生に持たせられるようにしたい。
		ゴミの減量化・分別の徹底・リサイクル活動の推進	・ゴミの減量化 ・ゴミの分別 ・ペットボトルのリサイクル活動の推進	・できるだけゴミを出さないよう呼びかける。 ・どうしても出るゴミは分別する。燃えるゴミは小さくして捨てる。段ボールや古紙などは倉庫へ運びリサイクルに役立てる。 ・教室のペットボトルは掃除当番がゴミステーションに持って行き、処理する。 ・美化委員はリサイクル処理を行う。	B	リサイクル処理については、各クラス年2回程度で担当してもらったが、施設管理の方にしていただくことが多かった。次年度は、ゴミが多くなる行事に学年で分担してもらうようにする。

生徒部	生徒会指導	生徒会活動の活性化	生徒会活動に興味・関心が湧くようそれぞれの活動に工夫を凝らす。	<ul style="list-style-type: none"> 校内ではあいさつ運動を実施する。 マナーアップキャンペーンなど外部のボランティア活動にも積極的に参加する。 新入生に部/同好会活動紹介ツアーをおこない、生徒の入部率を上げ、それぞれの活動がより活発になるようにする。 	A	今年度、生徒会は「春の全国交通安全運動プレキャンペーン」に参加し、「痴漢抑止バッジデザインコンテスト」の2次審査を行った。地域の安心・安全を考え、社会に貢献するよい機会となった。
		学校行事の充実	体育祭・文化祭をよりよいものに変えていく。	<ul style="list-style-type: none"> 文化祭・体育祭運営をよりスムーズに行う。 体育祭の競技について検討し、グループ内での一体感を持たせる工夫をする。 文化祭はテーマに基づき、それぞれの舞台演技・展示の充実を図る。 その他学校行事において積極的に参加するとともに生徒会としても生徒の自治能力を向上させる。 	A	行事ごとの反省会はうまく機能しており、有効である。次年度生徒会への申し送りを確実に行いたい。
		各委員会の積極的な活動	評議・執行・美化・保健・特別の各委員会がそれぞれ目標を明確にし、共有する。生徒主体の活動を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 連絡が円滑になるよう工夫する。 美化では委員会が率先して活動し、校内全体の美化に努める。 保健に関する啓発活動により意識向上と改善を図る。 生徒会関係冊子の充実に努める。 申し送りを確実に行う。 	B	特別委員会発行の「航跡」の原稿は、データで回収することとした。各委員会が義務を果たしたが、行事ごとの申し送り事項の整理・記録は完全とは言えない。来年度も課題とする。
生徒部	安全教育	防火管理体制の整備 自衛消防の努力	年3回の避難訓練の実施を目標とし、教職員および生徒の防災意識を高める。	<ul style="list-style-type: none"> 予告して行う訓練と抜き打ちで行う訓練とを行い、どちらの場合でもきちんと避難できるようにする(地震発生想定訓練を含める)。また、教職員対象に火災報知器訓練を行い、各教職員が対応できるようにする。 南海トラフ大地震を想定した、防災教育を開始する。 	B	今年度は予告なしでの避難訓練を行うことができなかった。来年度以降もそうなるだろう。次年度は、突発的有事発生時の心構えも含め、教職員および生徒の防災意識を高めるよう働きかける。
		校内危機対応意識の啓発 不審者への対応	それぞれの役割を把握し、不審者対応講習を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 教職員は、校門指導・下校指導と連動し、不審者から生徒の安全を確保する。 	A	Classiも有効に活用し、防犯意識を高めるよう働きかける。
		全校生徒(特に自転車通学者)への安全意識の啓発	全校生徒を対象に年1回の講習を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 自転車通学者リストを作成し、交通安全講習会を行う。講習会は、外部講師または啓発DVDを使用し、登下校時の交通安全意識を高める。 	A	交通安全DVDを視聴し、自転車だけでなく全生徒の交通安全意識を啓発した。Classiも有効に活用しながら、交通安全に対する防災意識を高めるよう働きかける。
		応急処置の意識の啓発	緊急時に正しく的確な応急処置ができるようになる。	<ul style="list-style-type: none"> 年1回、AEDを用いた心肺蘇生法の講習会を行う。継続的に講習会を行うことで、より新しい情報を取り入れ、各教職員の応急処置の知識・技術を向上させる。 	A	心肺蘇生法の知識・技術を再確認した上、てんかんの対応やアナフィラキシーショックへの対応、エピペンの使い方などの講習も実施することができた。
	性教育	実態に応じた性教育の推進	性に関する問題・現状を知り、思春期の心身の発達を正しく理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 性について様々な角度から継続的に学び、性に対する考えを深める機会として、中高一貫の6年間に年1回は性教育を実施する。中学1年・2年・3年生、高校2年生では性教育講演会・性教育プログラムを行う。中学2年生、高校1年・3年生では、保健の授業で学習する。また、総合学習や他教科とも連携し、性についての正しい知識の浸透を図る。 	A	今年度も各学年でテーマを設定し、性教育講演会・性教育プログラムを実施することができた。次年度、高校2年生の性教育講演会の実施方法を変更する。

2024年度 学校自己評価(校務部・宗教部) (A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった)

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
宗教	日常礼拝の実施	講話者当番	専任教員を対象として、五十音順に「お話」の当番を割り振り、さまざまな先生方に話していただく。	<ul style="list-style-type: none"> 4月に担当日を決めて事前連絡をして話していただいた。(都合が悪い場合は、変更した。) 12月に写真部による文化祭・体育祭のスライドショーを行った。 3月にBlue Earth Projectの活動報告を行った。 	A	教員のみならず、職員や松蔭に関わる方々にもお話ししていただけるようにする。
		奏楽者当番	学校行事や式典の奏楽者を手配し、日時および聖歌番号を事前連絡する。	<ul style="list-style-type: none"> できるだけ早くに聖歌番号を決定し、連絡するようにした。 	A	奏楽者への事前確認を事前に入れるようにする。
		生徒の参加に関する指	定時から落ち着いて礼拝が	<ul style="list-style-type: none"> 礼拝前に各自、聖歌等の準備をし、心を 	A	早めに講堂へ集合し、静かに

		導等	始められるよう指導する。	落ち着けて礼拝を始めることができるように指導した。		礼拝を待つという体制を継続していく。
		日常礼拝の見直し	日常礼拝の回数を少しでも現在より増やす。	・かつては毎朝おこなわれていた礼拝のメリット、デメリットを考え、よりよい礼拝の形と回数の検討を重ねた。	B	来年度、日常の学校生活の様子を見つつ、礼拝の回数を増やせるように検討を今後も続けていく。
特別礼拝の実施		説教者の選定	それぞれの時点でふさわしいと思われる方を選定し、依頼する。	・それぞれ、わかりやすく有意義な話をしていた。	A	幅広い分野の方々に依頼できるよう、普段から情報を集め、関係をつくっておく。
		オルガニスト・聖歌隊手配	活動への参加が決まり次第、正式な依頼をする。	・参加が決まり次第、正式な依頼を行った。使う聖歌等についても早い時期に決めて連絡をした。	A	連絡を密にとって、これからも連携していく。
		式次第・式文の作成	説教者や聖歌隊と連絡を取り、式次第・式文をチャプレンが作成・準備した。	・各々の式にふさわしい選曲、聖句やお祈りなどを選択できた。	A	余裕をもって作成していく。
		礼拝形式	様々な形式での礼拝を行っていく。	・日常礼拝・1学期宗教週間特別礼拝・2学期宗教週間特別礼拝は、中・高別での礼拝をおこなった。 ・イースター礼拝、クリスマス礼拝は中高合同でおこなった。 ・イースター礼拝は山内慎平牧師（日本基督教団 神戸栄光教会）、1学期宗教週間は相澤弘典先生（頌栄短期大学 理事長・院長）、2学期宗教週間は吉岡恵生牧師（日本基督教団 高槻日吉台教会）、クリスマス礼拝は若林一義牧師（日本基督教団 芦屋西教会）にお話を依頼した。 ・クリスマス特別礼拝はキャンドルサービスで行った。	A	礼拝で聖歌の歌唱を再開した。 次年度以降もどのような形式での礼拝をおこなうのがよいか検討を続けていく。
その他礼拝		参加自由礼拝の企画	親しみやすい集まりを持ちキリスト教に興味を持ってもらう。	・朝の礼拝、ヌーンサービス、お誕生日礼拝、逝去者記念礼拝、震災記念礼拝・震災記念の祈りを行った。	B	これからも生徒へ呼びかけ、参加を促していく。 新たな企画や改革も検討する。
		奏楽者依頼	その他礼拝や式典での奏楽をスムーズに行う	・学校行事や式典が決定次第、手配した。できるだけ早くに聖歌番号を決定し、連絡するようになった。	B	連絡を確実にしていく。
宗教部企画の諸行事の実施	各種プログラムの企画立案	生徒が参加したくなるようなプログラムを企画立案し、生徒に提供する。	・1学期の宗教週間中は、放課後の企画「オルガンコンサート」を講堂で実施した。 ・2学期の宗教週間中は、レオノラチャペルでクリスマスグッズ作りを行った。 ・にじ作業所のパンの販売を実施した。 ・図書館との協賛でブックリサイクルを行った。 ・教会訪問は、日本聖公会 聖ヨハネ教会・日本基督教団 神戸東部教会の訪問を呼びかけ、参加した。 ・2学期の宗教週間には近隣の教会の牧師を招いてクラス講話をレオノラチャペルで行った。 ・3月11日(火)の放課後に近隣の記念碑を見て回る「震災記念めぐり」・「人と未来防災センター見学」を行った。	A	今後も情報宣伝活動をより積極的に行い、多くの生徒の参加を促す。 新たな企画についても立案していく。	

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
		オルガンレッスン	オルガンレッスン生を適宜補充し、定期的にレッスンを実施していく。	・レッスンは、放課後または昼休みに講堂及び小チャペルで行った。 ・レッスン生には礼拝の奏楽奉仕をしてもらった。	A	
	各奉仕活動の実施	・にじ作業所の支援パン販売の実施 ・災害支援キャンプの開催	・施設との話を密にし、利用者、生徒共にプラスになるプログラムを考える。 ・苦しい状況にある人々を忘れない。	・にじ作業所（パン工場なないろ）を支援するため支援パン販売を企画し実施した。 ・「オープンスクール」でのチャリティ売店を実施した。収益は、災害支援NGO「ヒューマンシールド神戸」を通じて能登半島地震被災者支援のために献げた。 ・夏休みに能登半島地震被災地へのワー	B	今後も行える活動を模索・検討していく。

				ク・キャンプを計画したが、実施には至らなかった。 ・春休みに能登半島地震被災地へのワーク・キャンプを計画している。 ・日本聖公会 神戸聖ヨハネ教会における子ども食堂「イナスマ」のお手伝いを月1回行った。		
人権教育活動の実施	生徒向けの人権研修の企画立案	今の社会をとりまく諸問題について、的確に生徒に伝えることができるよう企画・立案する。	・「悠以」氏による講演会を企画した。事前に礼拝において「LGBT」に関するお話をした。	A	様々なお話しや教材によって幅広く学習する機会を与えていく。 さまざまな啓発活動を行う。	
	啓発文書の作成	大切なことをわかりやすく伝えていく。	・人権講演会にあわせて講演会の予告を『チャペルニュース』に掲載した。	A	より分かりやすい文章を考えていく。	
	教職員向けの人権研修の企画立案	教育を行う上で大切な人権感覚を養うことができるよう企画立案する。	・「井上鈴佳」氏による「LGBT」に関する講演会を企画した。	A	お話しや取り組みを通して幅広い理解が出来るように考えていく。	
宗教教育に関するプログラム実施	様々な場面で行う宗教教育プログラムの企画立案	キリスト教に対する興味や関心を持たせるとともに、さまざまな人との関わりに共感することができるようなプログラムを企画・立案する。	・8月5日～6日に神戸教区主催の広島平和礼拝への参加、広島女学院主催の署名運動に参加した。またそのための事前学習会をミカエル教会で実施した。 ・3学期に核廃絶の署名活動を支援するため、生徒会を通じて全校生徒に署名への協力を呼び掛けたり、クリスマスの集いで署名活動を行った。	A	少しでも多くの生徒が参加してくれるよう、今後も情報宣伝活動を積極的に行い、生徒の参加を促していく。	
啓発文書の発行	『青谷』の発行	キリスト教に関連する意見や思いだけでなく、幅広く教職員・生徒の思いを収集し編集していく。	・日常礼拝での講話者・今年度末での退職者をはじめ、さまざまな方々に広く原稿依頼を行った。 ・生徒の感想なども取り入れた。	A	宗教部の活動を広く教職員で共有できるような内容を考える。	
	『チャペルニュース』の発行	定期的に発行し、宗教部の行事や活動を報告する。	・活動中の写真などもおまぜて、合計5回、発行した。 ・Classiで全校保護者・生徒に配信した。	A	活動報告だけではなく、広く様々な記事を掲載し、親しみやすい刊行物としていく。	
	「聖句」の教室掲示	教室掲示により聖書に親しみ、多くの箇所を紹介する。	・年間聖句および5月から月1回の発行を目標に書道部に依頼し、合計8回、各教室と図書館前、廊下、講師室、事務室前、バス道掲示板等に掲示した。 ・聖書の箇所の解説をチャプレンに依頼し、聖句と共に掲示した。 ・Classiで全校保護者に配信した。	A	今後も適切な聖句を早めに選び、学内外で紹介していく。	
関連諸団体との連携	献金・人的支援・その他	関連諸団体及び彼らが関わっている現場の状況を把握し、適切な支援を考えていく。	・「日本聖公会」「北陸学院キリスト教センター」「災害救援 NGO ヒューマンシールド神戸」を通じて、能登半島地震被災者支援のために捧げた。 ・一般社団法人「みをつくし」を通じてシングルマザー支援のために献げた。	A	必要とされる場所に献金、人的支援ができるようにリサーチしていく。	

2024年度 学校自己評価（校務部・総務部）（A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった）

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
総務部	総務	緊急連絡システム（ミマモルメ）	適切な運用・管理・発信をする。	各学期初めにテストメールを配信した。必要な場合、メールによる緊急連絡を実施した。 内容により、未到達者に対しては、電話で連絡した。	A	未開封者に対して、対処マニュアルを配布し、開封確認や登録を依頼する。
		式典・学校行事	職員との連携をはかりつつ、会場等の準備を適切に進める。	設営等は施設管理職員にあらかじめ依頼内容を報告し、作業後に点検を行った。	A	設営作業がスムーズにいくように式典前の施設利用に気を配る。
		奉仕活動の日	学年やクラス単位で独自の社会貢献を考え取り組む。	「奉仕活動の日」として、近隣の清掃活動やSDGs関連の取り組みなど、学年ごとに計画した活動を実施した。	A	地域社会を大切にして貢献できるような活動を推し進めていく。
校内施設・備品		各教室の管理	教室の机・椅子の数等を把握する。 余りの机・椅子の保管場所を確保する。	施設管理職員と連携し、不良品や修理の必要なものを適宜交換した。 余りの机・椅子の保管場所を確保して美化・安全面へ配慮した。	A	年度末に不具合のある机・椅子の入れ替えをする。
		空き教室の有効利用	放課後に校内で行われている活動（部活動・補習など）を掌握する。	通常利用一覧表を掲示し、月別の放課後教室利用を共有のエクセルシートに使用者が入力した。	A	通常活動場所一覧の更新を定期的に行う。 安全面・美化面を考慮し、余

		長期休暇中の教室利用を調整する。 教室の有効利用を進める。	利用頻度が高い場所については、校内イントラネットを活用して予約が重ならないようにした。 長期休暇中については、事前に教室使用希望調査を行い、調整した。		りの机・椅子の保管場所を確保する。
	施設使用状況の把握	校内施設の使用状況を各部署に連絡する。	月末に職員室、事務室、施設管理、守衛の4部署に翌月の施設利用表を配布・配信し、周知をはかった。	A	校内イントラネット及び会議録によって、なるべく早い時期に利用予定を掌握する。
	不良箇所の補修	事務室・施設管理との連携を心がけて速やかに対処する。	できるだけ早く施設管理職員に連絡を取るようにした。 必要な場合には業者に修理を依頼した。	A	定期的に校内の点検・見回りをし、早めに状況を把握する。特に、エアコンについては、経年使用による不調が頻繁に起こるため、必要な対応を速やかに行う。
	校具・消耗品・清掃用具等の購入・分配	清掃用具・備品の補充、補修を適宜行う。	生徒の清掃に関わる品物を購入、必要に応じて分配した。 合宿時の寝具レンタルを手配した。	A	定期的に在庫の点検をして、計画的にまとまった量を購入することで、コストダウンを心がける。
	事業系ゴミの排出	ゴミを分別回収する。学校を清潔にするように努める。	指定ゴミ袋に分けて排出した。古紙類・ペットボトルなどは業者に回収を依頼した。産業廃棄物などは業者にたびたび依頼して排出した。	A	ICTデバイスの活用により印刷を削減し、紙類の使用を減らす。 その他、ゴミの削減に努める。
広報 (ホームページ・学校報)	ホームページ (学校の広報)	活動内容が伝わりやすい内容になるように努める。 定期的に更新する。	各学年や記録係と連携し、学校行事など内容をできるだけ早く更新した。 情報を見やすくすることを心がけた。 SNSを活用した。 緊急・災害時情報入力フォームを確認した。 Blue Earth Project、図書館、同窓会(千と勢会)との情報共有を継続して進めた。 北門掲示板・校長室前掲示板にニュースレターを掲示した。 各部署にページの校正を依頼し、更新した。	A	学校活動の活発さをより効果的に発信する対策・方法を工夫していく。 各種内容を必要に応じて更新する。 学校HPのTOPページを改良していく。 「松蔭なび」(校内のルール・約束事)・「進路の手引き」を管理・更新する。
	学校報 (1年間の学校の記録)	記録として分かりやすい内容にする。	1年間の正確な記録を集め、次年度1学期末の発行に努めた。	A	写真等を積極的に活用する。 各学年に積極的に働きかける。
資料	資料の整理・保存	資料を計画的に保存する。 主な発行物の残部を保管する。	資料の整理を継続して行った。	A	古い資料・貴重な資料の整理を進め、体系的な整理に努める。 今後の資料の整理・保存についても検討する。
記録	写真などのデータの一元化	学年で撮影した写真のデータを集約する。	データが有効に活用できるよう速やかにフォルダに共有した。 写真データ収集を各学年・写真部に依頼した。	A	各行事の記録が残るように撮影に努める。

2024年度 学校自己評価(校務部・進路指導部) (A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった)

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
		進路指導体制の充実	目標や夢を持つことと、目標達成に向けて努力していくことの大切さを伝える。	卒業生・外部講師による講話や高3生徒による進路ライブなど、生徒に考えさせる機会を作る。	A	卒業生も積極的に活用できるよう環境整備ができてきた。 次年度以降も卒業生を積極的に活用しさらなる充実をはかる。
			中高6年間のそれぞれの発達段階に応じ、進路指導部と学年が連携しつつ、体系的な進路指導を実施する。	各学年の進路指導部の教員を中心に、進路指導部の体系的な指導の実現を図る。	B	各学年の進路指導部員を中心に、部との連携を持って、年間計画を進めていく。

進路指導部	進路		自習室を積極的に活用できるようにする。また質問等しやすい環境の整備をする。	各クラスで自習室の利用の仕方ならびに積極的に活用するよう生徒へ周知する。S-Caféについても積極的に活用できるように生徒への周知をする。質問スペースについても継続して開設する。	B	S-Caféは開設でき、少しずつではあるが活用できてきた。自習室の利用も増え始めてはいるがさらなる利用促進のため定期的にアナウンスしていく。
			探究を利用して、学問・大学研究をし、高校卒業後の進路について早期から考える。	高1言語探究の時間をはじめ、進路学習を系統的に行う。中3や高2の探究の時間も生かして、継続的な進路学習を行う。オンラインでのガイダンス等も活用する。	B	効果的な進路研究の方法について検討する。
	指導	進学指導の充実	実力考査を定期的実施し、進学指導に生かす。	実力考査および、高校生のための学びの基礎診断（スタディーサポート）を実施する。	A	次年度以降も実力考査・校内実力判定試験を有効に活用する。高校1・2年生では実施後の資料を有効に生かしていくため資料の見方講座を実施した。引き続き実施していく。
			実力考査の計画的な実施。	高校3学年の実力考査を、春の段階で進路指導部が、時期と業者を決めて学年に伝える。	A	採用した実力考査が本校の現状に合っているか、常に点検していく。
			大学入試制度改革への対応。	情報収集に努め、生徒保護者集会などを用いて説明する。教員への情報提供も行う。	B	新課程入試に向けて引き続き情報収集と情報提供に努める。
	部	キャリア教育の充実	社会の一員としての責任ある生き方を考える機会を与える。大阪関西万博を意識した活動をする。	Blue Earth Project チームYではエコイベントを実施する。大阪関西万博関連のイベントに参加する。探求学習では Blue Earth Project と同じテーマで企画立案発表までを行う。	B	次年度は探求学習での活動はなくなるが、大阪関西万博での活動報告に向けた活動に時間をかける。
			社会や自然とのつながりを実感しつつ、その後の人生で生きていく力につながるような気づきの機会を与える。	高2・高3の Blue Earth Project では校外でのイベント活動と店舗アタックを行う。	B	校外でのイベントは高2・高3の活動に集中し、引き続き充実させていく。

2024年度 学校自己評価（校務部・入試広報室）（A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった）

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
入試広報室	生徒募集	オープンスクール	小学生・保護者が本校の教育活動を体験・見学することで本校入学を志望するようし、併せて入試に向けての学習動機付けとする。	1学期、いちばん大切な入試行事。できるだけ多くの生徒、教員をみていただくようにする。	B	他校の説明会・イベントと日程が重複しないよう注意する。ご参加数が減少。
		中学校説明会	主に小学6年生保護者に対して入試の詳細について伝達し、併せて受験意志を固めさせる。	9～11月に3回実施し、本校の教育内容を的確に説明した。	B	在校生と交流できるよう検討。
		GS・GL説明会	松蔭にGS・GLがあること。その教育内容を知らせていただく。	中学受験で自己推薦GS入試を実施すること。英語1科でも受験可能であることを説明。	B	授業見学会の参加、小学生にはELS講座への参加につなげたい。
		授業見学会	授業の様子を見ていただく。	松蔭独自の授業をご見学いただくようにした。中学と高校にわけて実施。	B	HPなどで、授業見学会を実施していることをより知っていただく。
	関連事項	クリスマスの集い	冬のオープンスクールのイベントとして小学生・中学生に本校のキリスト教主義学校としての雰囲気を感じてもらおう。	小学生・中学生のみなさん楽しんでもらうこと、が一番の目的。そのために、事故がないように注意した。	B	演劇部を中心に、多くの生徒の活動を紹介した。ご参加人数が減少。今後、多くの方にご参加いただけるよう検討。
		外部会場での説明会	遠方にお住まいの方に、松蔭のことを知らせていただく。興味を持っていただく。少人数できめ細かく対応する。	10月・11月に宝塚・明石・西神南・阪神西宮で実施。お申し込みの状況を見て、4か所に減らした。	B	お申し込みの人数が減少。会場近隣の塾さんなどへ事前にチラシの配布など、これまでより取り組む。
		個別相談会	入試直前の12月に校内での説明会を企画し、受験生・保護者への最後のアピールを行い、志望校未定者を志願、受験につなげる。	個別ブースを設置。ご希望の方には校内をご案内。	B	今回、ご参加数が多かった。入試直前の時期なので、より的確な対応を心がける。

	学外のブース式説明会	主に保護者の方からの質問に効果的に答え、ご来校いただけるようにする。	疑問・質問に対して的確な説明を心がけた。	B	保護者の方と直接話す機会を増やして、現場教員の「顔」が見えることをより可能にしていく。 多くの説明会で来場者数が減少。
	学外の講演形式説明会	受験意欲を喚起し、校内での様々なイベントへの参加を促す。	4月に塾でミニ説明会を実施していただく。校長が参加。	B	このような説明会の数を増やしたい。塾さんに実施を依頼。
	E L S 講座	2ストリーム制の設置に伴い、校内で小学生対象の英語講座を設置した。	2つのレベルを設定し、幅広くご参加いただけるようにした。	A	講座参加児童の入学が増えてきた。より参加者数を増やし受験に結びつけたい。
	個別の学校案内	個別に案内する機会を持ち丁寧な対応によって教育活動を紹介する。	訪問者に対する学校側の窓口として適切な対応を心がけた。	B	個別見学の申し込みをしやすくするよう、HPなどで呼びかける。
	プレテスト プレテストアドバイス会	入試本番へ向けての練習として、また、松蔭に興味をもっていただく機会として実施する。	併願受験の方にも、松蔭をご検討いただけるよう説明をしたい。	B	より多くの方に受験していただけるよう対策を考える。
	課題図書プレゼン入試説明会・課題図書プレゼン練習会	課題図書プレゼン入試の説明会を9月・12月に2回、本番へ向けての練習会を12月に実施。	入試の内容をわかりやすく説明。入試へ向けてどのような準備をすればいいか、できるだけ具体的に説明。	A	課題図書プレゼン入試を実施していることを多くの方に知っていただく。
	英語面接練習会	英語入試(GS)での受験をお考えの方に、より受験の意欲を持っていただけるようにする。	本番と同じ形式で個別に面接を実施、同時にアドバイスをする。	A	2回に分けて実施
	オープンハイスクール	中学生・保護者が本校の教育活動を体験・見学することで本校入学を志望するようにし、併せて入試に向けての学習動機付けとする。	オープンスクールと別日程で実施。	B	参加数が減少。より多くの中学生に参加してもらえよう、広報活動を活発に行う。
	高校説明会	高校入試についての説明、また、松蔭を知っていただくための説明会。	3コース制の制度を詳しく説明。	B	参加数が減少。在校生と交流できるよう検討。広報の方法を検討。
	学校案内冊子	教育内容、卒業後のイメージを的確に伝達できるようにする。	現在の教育活動や校風が的確に表現されるようにした。	B	松蔭のことをあまりご存知ない方が、学校案内をみて、大体的様子がわかるようにする。
	広告	松蔭という学校を、より、知っていただく。	阪神電車、山陽電車、地下鉄に広告を出した。	B	より効果的な広告を検討する。
	ノベルティーグッズ	小学生・中学生が魅力を感じるグッズを提供する。	外部説明会でシャープペンをわたした。	B	松蔭の特色に合致したグッズで、小学生・中学生に喜んでもらえるものを検討。
	塾訪問	塾の先生方との関係を深め、より多くの塾生に松蔭を知ってもらう。	年間を通じて複数回の訪問を実施し広報・入試相談を行った。	B	引き続き訪問活動をすすめるが、ただ訪問するだけでなく、内容を伴ったものにする。
	中学校訪問	松蔭が高校入試を実施していること、3コース制を実施していることを多くの先生方に知っていただく。	チラシ、ガイドを作成。女子生徒への配布を依頼。高校入試でWEB出願を開始、中学校の先生方へ、その説明を行った。	B	男子生徒募集開始に伴い、より広く学校をアピールする。
	公立中学校の先生方対象、私立高校説明会	松蔭が高校入試を実施していること、3コース制を実施していること、併願受験を実施していること、を多くの先生方に知っていただく。	10月に神戸市の説明会に参加。	B	その後の中学校訪問につなげる。男子生徒の募集をはじめるところを知っていただく。
	塾対象説明会	教育内容を説明し、塾の先生方を通じて、通塾生、保護者の方に松蔭を知っていただく。	9月後半の平日に実施。ストリーム制、高校入試について説明。	B	男子の募集をはじめるところを説明。
	模擬試験会場	芦研模試6月、10月の2回。同時進行で説明会を実施。	男子の受験も可能。	B	プレテスト同様、入試本番に近い形で受験できるようにする。

2024年度 読書運動委員会・図書館 (A よくできた B できた C あまりできなかった Dできなかった)

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
図書教育	読書指導	生徒が読書の習慣を身につけるよう、指導する。	全校読書運動(第55回)	・読書運動委員会で今年度の全校テーマを決める。2024年度は「未来」。 ・テーマにそって、各学年で具体的な課題を考案。 ・教員による推薦図書リスト、紹介文をファイルにしてClassiで配信。	A	今年度のテーマは「未来」。委員の教員が会議で話し合い、「来年は『いのち輝く未来世界のデザイン』というテーマで、『大阪万博』が開催される。気候変動や世界の紛争・

	読書感想文作成	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒たちは、ファイルを参考に本を読み、夏休みの宿題として学年ごとに設定された課題に取り組んだ。 ・優秀作を図書館に展示。 ・図書館展示終了後、優秀作をポプラ社のPOPコンクールへ応募。 ・国語科の取り組みとして、各学年で課題図書を決め、感想文を書かせた。今年度も、感想文の書き方について授業でも取り組んだ。授業後生徒たちは、400字程度の下書きを作成、提出し、授業担当者がアドバイスを書き込んで返却した。 ・感想文を校内読書感想文コンクール出品作として扱い、優秀作、佳作に選定された作品を2025年2月のアSEMBリーで表彰。 <p>各学年の最優秀作品は、第52回兵庫県私学読書感想文コンクールに出品。今年度は、中学：入選：1作、佳作2作。高校：佳作3作。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第55回全校読書運動冊子（読書運動の報告、読書感想文コンクール優秀作等を記載）を作成、配布した。 		<p>災害など、これからの私たちを取り巻く世界は決して明るいことばかりではない。しかしそのような中でも、私たちはそれぞれの『未来』に向かって、日々前を向いて生きている。『未来』を少しでも明るく希望の持てるものにできるように、読書を通じて自ら考え、『未来』を切り拓いていく力を得てもらえればと思う。」などという理由でこのテーマに決定した。様々な形で「未来」を感じ取ることでできる推薦図書リストが完成し、全学年共通の「POP作成」の課題に取り組む、今年度も各学年段階に応じた個性豊かな作品が多く提出された。優秀作を「第7回全国学校図書館POPコンクール」へ出品し、「POP王賞」高校2年生、「本の魅力が伝わるPOP賞」高校3年生、「イラスト賞」高校1年生が受賞した。</p> <p>しかし日頃から読書に興味を持ち、図書館を活用するなど、自発的に活字に親しもうとすることのない生徒も多い。様々な機会に読書に対する興味を持てるように、今後も継続して教職員の協力を求めたい。具体的には、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常的な推薦図書の紹介等、読書指導の推進。 ・個人の嗜好に合わせた情報の発信。 ・読書感想文、書評等の書き方の指導の充実。 ・読書運動冊子の活用法の検討。 ・授業内での図書館利用の推進。
	<p>ゴールドカード・プラチナカードの表彰</p> <p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・この1年間に50冊以上図書館の本を読んだ生徒にゴールドカードを授与、2月アSEMBリーで表彰（賞状とブックカバー） ・高校でさらに50冊以上読んだ生徒にプラチナカードといつでも10冊借りられる特典と図書館ロゴ入りクリアファイル授与 ・中学・高校卒業時に今まで貸出した資料リストを配布。 	B	<p>今年度プラチナカード授与者は1名。ゴールドカード授与者は中学3名、高校生1名。うち1名はサタデーライブラリー出身。たくさん本を読んだ生徒を表彰したり、自分が読んだ本を確認させたりすることで、読書に対する興味をかきたてたい。左の取組みは、今後も継続。</p>
<p>生徒が図書館を有効に利用できるようにする。</p> <p>生徒がメディアリテラシーを身につけられるようにする。</p>	<p>探究等の調べ学習の際の利用。</p> <p>授業での利用。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業での利用：高1「言語探究」、高2G「探究」。 ・自習も本に親しむ機会になるので歓迎。 	B	<p>各学年・各教科とのさらなる密な連携を図り、要望に応えるための工夫をする。教員側の意識をさらに高めることが課題。多くの教員が図書館に頻繁に来て、図書を使った授業の工夫も行うよう促したい。</p>
	<p>図書館利用のルールを理解、遵守。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新入生、転入生に対して、オリエンテーションを随時実施。 ・日常的な利用に際して、きめ細かい指導を実施 	A	<p>時間不足なので自習時間等別の時間を見て補う。</p>

		広報等	<p>図書館情報誌「はと時計」「噴水」を発行。本の紹介をはじめ、各種イベントの案内。classi に新着図書一覧と、「はと時計」「噴水」を配信（3年目）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵本ボランティア、読書みくじ等の各種イベントを実施。 ・高3三学期有志参加プログラムの一環として司書体験。 ・チャリティブックバザーの実施。今年はclassi で呼びかけて保護者の参加も。売上げ全額をチャリティに。 ・図書館の公式X(旧 twitter、facebook instagram)のアカウントを運営（4年目）。 	A	<p>「はと時計」の益々の充実・周知を目指す。生徒が積極的に楽しく読書活動ができる機会を拡大したい。</p> <p>司書体験 参加は4名。</p>
選書	係による選書	生徒、教職員に必要とされる図書の充実。	係による定期的な選書を実施・生徒からのリクエスト本について随時審議。	A	ジュンク堂への見計らい選書が実施できた。